

小学校5年生の「情報とわたし」に“体験”を提供する

総合的な学習の時間全体計画を踏まえたコーディネート

世田谷区立桜小学校 5学年 支援団体：(株)テレビ東京ほか

世田谷区立桜小学校の学校支援コーディネーターの服部有紀さんからネットワーク協議会事務局に連絡をいただき、5学年の総合的な学習の時間の様子を、25年10月と26年2月の2回に渡り、見学してきました。

桜小学校では今年度、総合的な学習の時間の全体計画として、学年ごとのテーマ〔第3学年「郷土とわたし」、第4学年「環境・ひととわたし」、第5学年「情報とわたし」、第6学年「社会とわたし」〕を設定し、横断的・総合的な学習や探求的な学習に取り組む中で、各学年が積極的に外部講師等を導入しています。

全体計画書の「実施にあたっての学習展開例」には、一つの例として「コーディネーターとの打合せ」と明記されています。学校支援コーディネーターである服部さんと青柳さんは、学年テーマ“情報とわたし”の学習活動について、5学年の担任の先生から相談を受けていました。単元、2学期の「ディベートをしてみよう！」と、3学期の「放送局ってどんなところ？」における、「追求活動(体験活動)」の具体化についてでした。

第5学年「情報とわたし」における「内容と児童像」には、「自分の周囲に溢れる情報とのかかわり方を学び、情報に流されない主体的な自己を確立することの大切さに気付く児童を育てる。」と全体計画に描かれています。このことを踏まえ、服部さんたちコーディネーターが、該当する単元の体験活動にふさわしいと担任の先生方に紹介したのが、2学期は第一東京弁護士会法教育委員会所属の弁護士のみなさん、3学期はテレビ東京の職員のみなさんでした。

“第一東京弁護士会 法教育委員会”も“㈱テレビ東京”も、それぞれ独自に、児童・生徒を対象とした、講師派遣や職場見学の受入等の社会貢献活動を行っています。今回は、服部さんたちコーディネーターが、全体計画と担任の先生の意向を事前に伝え、桜小学校の5年生用に既存のプログラムや専門的なリソースをアレンジしていただきながら、授業への導入を図っていました。

ディスカッションをしよう 協力：第一東京弁護士会法教育委員会

実施日時：平成25年10月12日(土) 時程：2・3時間目(全5時間のうち2時間) 1・2組別同時実施

「ディベート」を体験する単元ために用意されたのが、「ルールづくり」のディスカッションプログラムでした。住宅地にオープンしたテーマパーク、その運営をめくり、児童はテーマパーク社長、中学校長、中学生、住民、サラリーマンの役になり、班毎に話し合います。

先生方も交えて事前に打合せをして作成したオリジナルプログラムには、地域の環境や一人一人の立場の異なる人物など、詳細な設定がなされていました。

弁護士の方々の協力を得て、この日の一週間前にはディスカッションスキルを学ぶための体験的授業を行い、2日前には同じ役の児童が集まって作戦会議を行いました。この日はいよいよ本番でした。



前半は、児童がそれぞれの立場になりきって、意見を述べます。各クラスに2、3名の弁護士のみなさんが入り、各班の話し合いの進め方を見守っています。児童たちは、立場が異なることで、意見が異なることに気がついていきます。ここで再度同じ役の児童が集まって作戦会議を行いました。



話し合い、解決策として出たアイデア、新しいルールを班毎に発表しました。

弁護士のみなさんは、解決策そのものについてもコメントしつつ、特に「人ではなく意見に対して反対意見が言えていたか」など、話し合いの進め方について、重点的に評価を行っていました。

なお、この3日後には、各班が作ったルールをもとに、4つの視点からルールを検討・評価する授業が行われました。



話し合いを始める前に、進行役の弁護士の方が、「様々な立場からの意見に気付く」「理由に基づいて意見を言う」「反対意見は、人ではなく意見について言う」「全員が意見を言う」との注意点を確認して、テーマパークをめぐる話し合いが始まりました。



後半は、様々な意見から浮き彫りとなった問題の解決を目指して、話し合いを進めます。解決策、ルールアイデアを発表用の短冊に書き込みます。

放送局ってどんなところ？ 協力：㈱テレビ東京

実施日時：平成26年2月14日(金) 時程：3・4時間目(全6時間のうち2時間) 1・2組合同(体験は組別)

「放送局の仕事や役割を調べ、情報の役割や情報の利用の仕方について考える」が、この単元の学習内容です。今回の授業はその“体験”としての位置付けてました。

1・2組の児童が待ち受けるホールのスクリーンに、桜小学校を紹介するアナウンサーが映し出されました。テレビの実況中継さながらの演出のなか、カメラマンとスタッフが、アナウンサーと共にホールに登場し、授業が始まりました。



カメラマン体験



「テレビを見るときは、思い出し、体験をしよう！」

被写体にズームし、ピントを合わせます。



音楽番組を事例に、カメラ役割、カット割りやカメラマンの動き方のレクチャーの後、実際にプロが使うカメラの操作を体験させていただきました。

アナウンサー体験



「読む」ではなく「伝える」が大切。

アナウンサーが毎日実践している発声練習を、指導していただきました。



ニュース原稿を読み上げる体験です。まずお手本を示していただき、スタジオに見立てた教室で、カメラに向けて、本番さながらに原稿を読みます。

「演出」について



1組と2組、交代でカメラマンとアナウンサーの体験をした後で、合同で、ディレクターの方のお話を聞きました。

具体的な演出の事例を通じて「テレビ番組をどのように作っているのか」を説明していただきました。

「一人一人が、情報を鵜呑みにせず、自分はその何をどう考えるのかが大切」であると、現場からの説得力のあるお話をいただきました。

桜小学校は、平成17年からコーディネーターを配置している学校です。授業終了後、「先生方と授業をつくることができた貴重な経験でした(弁護士)」、「受入体制がしっかりしていて安心して実施できました(テレビ局スタッフ)」といった支援した側の専門家みなさんのコメントから、円滑に、日ごろの専門性を生かし、学校の授業に協力できたこと、そして子供たちと関わることができた喜びが伝わってきました。